

## JAPAN ACTION GUILD 「アクション・シーンでの安全性」について

子供の頬を平手打ちする過剰な暴力演出を「アクション・シーン」と称し、報道されている件に関して、アクションの専門家集団である「JAG」として、制作現場で日々大切にしていく理念を皆様にご理解頂きたく、声明を出させていただきます。

映画のクライマックスにあたる大掛かりな乱闘シーンも、問題となっている様な芝居の中での動きにも、常に危険はつきものです。

だからこそ、アクション監督や殺陣師、スタントコーディネーターといった経験豊富な専門家が現場におり、様々な角度から安全に対する策を講じ、テストを重ね、俳優やスタントマンが安心して演じられるような環境作りが必要不可欠です。

アクションの現場では、怪我をしないためのサポーター、プロテクターなどの装着準備から、パンチやキックの距離、本人や役柄の性格、カメラの角度等を考慮し、まずは、ゆっくり動きを確認し、徐々にフルスピードにあげていく流れを作ります。

難しい状況の中でも安全を優先させ、時には技の難易度を下げていくことも我々の大事な作業です。

さらに時代の流れにより変化していくものも受け入れてきました。

一例をあげれば、ワイヤーアクション等の機材に関しても、30年前のピアノ線からワイヤーへ、さらに縛り方や弱い部分への強化なども日々研鑽を重ね、10数年前にはハリウッドで使用している強化ロープを採用するなど、新しいもの、安全な現場への探求心を持ち、模索してきましたし、今後もそのことへの検証は、重ねて参ります。

安全かつ迫力あるアクション・シーンを生み出すために、また、業界のレベルアップを目指し、JAGは結成されました。

どれほど備えても予期せぬアクシデントは、起こります。

JAGの役割のひとつとして、アクシデントから原因を洗い出し、再発防止のために情報共有も行っています。

以上の理由からアクションの現場にアクションの専門家を置く事が事故を防ぐ最も大切なことだと考えています。

しかし、アクションへの情熱がありつつも製作費などの関係で、アクション監督や殺陣師に声をかけられない場合もあると聞いています。

我々の経験が少しでもお役に立てられるよう問い合わせ窓口の設置も検討しています。

闘いの演技には「危険」というリスクが伴いますが、ご覧になる皆様が堪能できるアクションを生み出していく土壌作りに、今後もJAGは力を注いで参ります。

2022年5月6日

(社) JAPAN ACTION GUILD